

生活単元学習 学習指導案

日 時：平成30年9月10日（月）
場 所：宮城病院 療育指導室
学 年：あすなろ教室高等部1年5組
指導者：T1 教諭 我妻 和義
T2 教諭 神山 和彦
T3 講師 佐藤 澄江

1 単元名「やまよう祭をがんばろう」

2 単元について

1) 生徒観

本学級の生徒は、学齢超過訪問の男性2名、女性1名の計3名である。日常の学習は宮城病院内にある療育指導室で行っている。登校するのは週3日の午前あるいは午後なので、全員がそろって学習する機会は少ない。

今回、授業をするのは男性2名である（他の1名についても後日、同様の授業を行う）。いずれの生徒も脳性まひであるため、程度の差はあるものの体の動きに制限がある。そのため、日常生活は両名とも基本的に全介助である。また、1名はまひのために発音ははっきりしないものの、日常会話は十分にでき、ニュースの内容を理解できる。もう1名は、会話はできず、コミュニケーションを成立させることが困難である。

両名とも、長い期間を病棟で過ごして来た。病棟での行事はあるが、病棟以外での生活経験は希薄になりがちで、見通しを持って自ら行動し、達成感を得るといった場面は少ない。卒業後の生活を豊かにするためには、在学中に、自らできる行動の種類を増やし、そのことで達成感を得ることが求められる。その前提として、見通しをもって行動する経験を積むことが必要である。

対象生徒Aは、両足の変形・側弯があるが、食事や車椅子の自走など、座位で両腕を使った作業ができる。しかし、コミュニケーションを成立させることは困難であり、自分の周りの状況の理解は十分ではない。そのため、運動会や学校の体育館での学習など、通常とは違う場所での特別な学習では、見通しをもてなくて、震えたり、落ち着かなくなったりする。他方、見通しをもっている活動には、落ち着いて取り組む。例えば、腕や体幹を動かすことを目的としたボールを使った運動では、ボールを示すだけで、自分のやるべきことを理解し、スムーズに取り組むことができる。また、太鼓の演奏が好きで、太鼓を示すとばちをもって、自分から太鼓をたたく。したがって、本生徒が達成感をもてる経験をするためには、周囲の状況を理解して、自分の取るべき行動の見通しをもつことが求められる。

2) 単元観

本単元は本校の文化祭である「やまよう祭」の事前学習である。

行事は、それを学校生活の目標として意識させることで、生徒が学校生活に取り組む意味を感じさせることができる。そして、行事の中での自分の役割を理解することは、事前学習に取り組む意味を理解することに通じる。ここには、行事があること、行事の中で取り組むこと、そのために事前学習の中で取り組むことの三種類の見通しがある。「やまよう祭」の事前学習である本単元でも、「やまよう祭」があること、「やまよう祭」で自分がやること（ステージ発表の練習と作品の制作）、

単元の各時間で取り組むことを知ること、といった三種類の見通しをもたせることが必要である。

前述したように、本学級の生徒には、見通しをもって自ら行動する経験を積み、達成感を得る機会が限られている。そのような生徒にとって、本単元は「やまよう祭」という行事に向けた種々の見通しをもち、その上で自ら行動して達成感を得る機会となる。

特に、対象生徒Aは、自分の置かれた状況や自分の取り組むことへの見通しをもつことが苦手である。教師が本生徒に見通しをもたせる工夫をすることで、本生徒が「やまよう祭」を学校生活の目的として意識できれば、本生徒の学校生活を充実させることの基礎を作ることができると思う。

3) 指導観

指導に当たっては以下の点に留意し、支援を行う。

- ・「やまよう祭」があること、「やまよう祭」で取り組むことを意識させるために、「やまよう祭」の様子を表す掲示物を掲示しておき、常に目に入るようにする。
- ・生徒が活動に集中できる状況を作る。また、必要に応じて、生徒の動きを引き出す補助具を活用する。
- ・学習の内容に見通しをもたせるため、その日の活動内容を示した写真等を提示する。その際、時間を追って全ての写真等を提示しておき、一つの活動が終わったら隠すようにする。
- ・対象生徒については、活動内容を表した写真等を提示しながら、教師が示範した後、その活動に教師と一緒に取り組むことを繰り返すことで、写真等と活動内容と関係を意識させるようにする。
- ・対象生徒の関心の高い活動である太鼓の演奏を取り入れることで、活動への動機付けをはかる。
- ・生徒が互いの活動を見る場面を繰り返し設定することで、他の生徒に関心をもてるようにする。
- ・成就感を味わえるように、うまくできたときは、周りの教師が称賛する。
- ・用具の置き場所等に注意して、安全に学習できるようにする。
- ・教師間で情報を共有し、生徒の微細な意思表示をとらえ、反応に応じる。

3 研究との関連

今年度の研究テーマは『「生活を豊かにする力を育てる授業づくり」(仮)ー主体的に活動できる生活単元学習の指導を通してー(仮)』である。生活単元学習の各単元の目標を三つの柱(生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」)の観点から目標が設定された単元を実施することが、「生活を豊かにする力」を育てるという仮説のものと授業づくりに取り組んでいる。

三つの柱はそれぞれ、「何を理解しているか・何ができるか」、「理解していること・できることをどう使うか」、「どのように社会に関わり、よりよい人生を送るか」ということを、その内容としている。これを簡潔に言えば、「できることや分かったことを(知識・技能)、活用して(思考力・判断力・表現力等)、自分や人のため役立てる(学びに向かう力、人間性)」ということになる。

今回の授業は「やまよう祭」の事前学習であり、「やまよう祭」という学校生活上の目的を達成するための活動がその内容となる。その中で必要とされる三つの柱に対応する内容は、次のようになる。

- ① 何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」)＝「やまよう祭」があることを分かること。自分がやるべきことが分かること
- ② 理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」)＝学習の中で、自分の知っていることを活用する時が分かり、行動できること。
- ③ どのように社会に関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」)＝「やまよう祭」という学校生活の目標に向けて、他の人と協力して「や

まよう祭」の準備や練習に取り組むこと。

これに従って、今回の単元の目標は設定されている。

あすなる教室での対象生徒Aの実態をケース会で話し合った結果、本生徒は見通しをもてば、自分から行動し、行動することによって自分にできる行動の種類を増やすことができる、との知見を得た。この2点から、本人が三つの柱の目標に向けた学習に取り組むためには、見通しをもたせることが重要であると言える。（「2単元について 2）単元観」で述べたように、本単元の学習の中では、「まよう祭」があること、「まよう祭」で自分がやること、単元の各時間で取り組むことを知ること、といった三種類の見通しをもたせることが必要になる。）したがって、本生徒に見通しをもたせることが本授業のテーマの一つになる。

同時に、見通しをもたせる際に、称賛や示範は有効であることが確認された。しかし、写真を提示するだけで見通しをもたせることは困難であることも指摘された。そこで、活動内容を表す写真等を常に提示しながら、教師が示範した後に、教師と一緒に活動することを毎授業で繰り返すことで、写真等が活動示していることを感じ取らせるようにすることとした。そして、本生徒の様子を見ながら、生徒が一人で取り組む時間や内容を増やしていくことで、自分がやるべきことへの見通しと意欲の形成を促したい。

4 単元の目標

- ・「まよう祭」のステージ発表や展示の内容を知る。【知識・理解】
- ・「まよう祭」への見通しをもって、ステージ発表の練習や展示物の制作に取り組む。
【思考力・判断力・表現力】
- ・友達や教師を意識して「まよう祭」に関する学習に取り組む。【学びに向かう力・人間性】

5 本単元の指導計画（8時間 本時 2時間目）

	時数	小単元名	学習内容	目標			教科等との関連
				知識・理解	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性	
第1次	2 本時 2/8	「まよう祭を知ろう」	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の様子をスライドや写真で見て、全体の様子を知る。 ・今年度の「まよう祭」の活動内容を知る。 ・教師と一緒にステージ練習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まよう祭」があることが分かる。 ・「まよう祭」でやることが分かる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に活動する。 	国語 生活 体育 音楽 美術
第2次	4	「まよう祭の準備をしよう」（ステージ発表と展示物の制作）	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒にステージ発表の練習を行う。 ・クラスの友達と一緒にステージ練習に取り組む。 ・教師と一緒に展示物の制作に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて活動に取り組む。 ・様々な手本をもとに取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの友達の活動の様子を見る。 	体育 音楽 美術
第3次	2	「ステージ発表を頑張ろう」（本番と同じように練習する）	<ul style="list-style-type: none"> ・本番当日の流れと同じように練習する。 ・教師と一緒にステージ発表の練習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まよう祭」で披露するという見通しをもってステージ発表の練習に取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒の動きを意識しながら、ステージ発表への意欲をもつ。 	国語 生活 体育 音楽 特別活動

6 本時の指導

1) 小単元名「やまよう祭を知ろう」

2) 本時の目標

- ①「やまよう祭」があることが分かる。【知識・理解】
- ②「やまよう祭」に取り組むことが分かる。【知識・理解】
- ③教師と一緒に「やまよう祭」での演技の練習ができる。【学びに向かう力・人間性】

3) 生徒の実態，目標，個別の指導計画との関連（別紙1）

4) 学習過程（別紙2）

5) 評価の観点

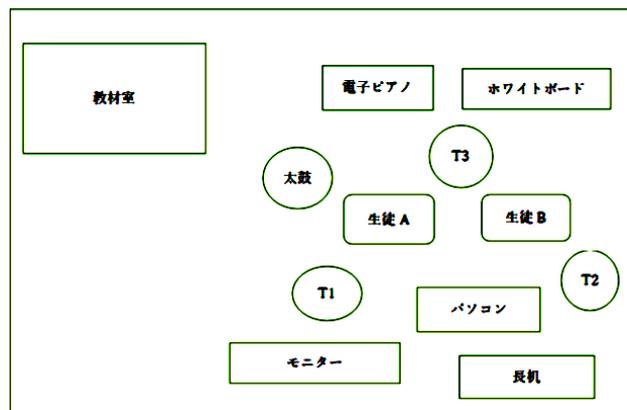
① 生徒の評価

生徒A	生徒B
<p>○「やまよう祭」があることを示すポスターを注視したか。【知識・技能】</p> <p>○「やまよう祭」の内容を表したパワーポイントの画面を注視したか。【知識・技能】</p> <p>○教師と一緒に、太鼓をたたくことができたか。 【学びに向かう力・人間性】</p> <p>○笑顔で太鼓をたたくことができたか。 【知識・技能】【学びに向かう力・人間性】</p>	<p>○やまよう祭」の実施日時を覚えたか。 【知識・理解】</p> <p>○昨年度の発表や展示の内容を，スライドから理解することができたか。 【知識・理解】</p> <p>○補助具を使って，他の人と合わせて楽器をならすことができたか。 【学びに向かう力・人間性】</p>

② 教師の評価

- 活動への見通しをもたせるための支援は適切だったか。
- 活動への意欲が高まるような支援ができていたか。
- 生徒が主体的に動く，あるいは動こうとしたところを的確に捉え，その動きを称賛することができたか。

6) 場の設定（配置図・教材・教具など）



生徒の実態，目標，個別の指導計画との関連（別紙1）

		生徒A	生徒B		
生徒の実態		<p>脳性まひ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発声はほとんどなく，会話が成立することはない。 ○その時々感情は表情に出る。 ○自分ができる活動では体を動かすが，見通しのもてない場や活動に出会うと，不安な表情，手の震えなどが出て，動きが止まる。 ○下肢の変形があるが，車椅子に座り，短距離の自走することができる。 ○上肢を使うことはできるが，肘を上げることは苦手である。 ○食事以外の日常生活は介助されて送っている。 	<p>脳性まひ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発声に困難を伴うものの，内容をすべて理解して会話ができる ○文字を読むことができる。 ○体幹と四肢の変形があり，仰臥位で生活する。随意運動はほとんどない。 ○日常生活は全介助である。 		
		<p>本単元（題材）に関わる実態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○大人数の中では，大きな音や多くの人の動きに不安になり，手が震えて落ち着かなくなる。 ○広い会場や多くの人の中では，周りの動きや音が気になって，自分の活動に集中できない。 ○たくさんの人に囲まれて，優しく声をかけられると笑顔がこぼれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の説明を聞いて見通しをもつことができる。 ○人と関わることを楽しむ。 ○補助具を操作して何らかの作業をすることに一生懸命取り組む。 	
		<p>本時に関わる実態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○スライドや写真カードの提示では理解が難しいところもあるので，教師が示範し，手を添えて一緒に行うことがある。 ○活動する時，自分の思った通りにできると笑顔を見せるときがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スライドや写真カード，教師の説明を理解できる。 ○自分のやるべきことを理解し，教師が示した方法に従って動く。 ○何らかの動きをしたり，話したりする時には全身の緊張が亢進する。 	
		<p>本時の個人目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドや写真カード，ビデオ等を視聴し，教師の話を聞く。【知識・理解】 ・教師と一緒に，太鼓をたたく。【思考力・判断力・表現力】 ・自分から手を伸ばして，活動に取り組む。【学びに向かう力・人間性】 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と会話をしながら，「やまよう祭」の日程や，それまでにやるべきことを理解する。【知識・理解】 ・補助具を自分で操作して，作業をする。【思考力・判断力・表現力】 ・他の生徒に合わせて，太鼓を演奏する。【学びに向かう力・人間性】 	
		個別の指導計画との関連	<p>自立活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手指を使った活動を通して，手指の巧緻性を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊張を緩める感覚を感じる。 ・自分の身体の各部位のつながりを感じる。 ・発声による緊張を，できるだけ短時間で軽減できるようにする。 ・いろいろな活動に参加して，興味や関心の対象を広げる。 ・自分の思いを相手に伝える意欲を持つ。
			<p>生活単元学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習や行事では，活動内容に見通しを持って落ち着いて取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真撮影や歌を歌うことなどの活動を通して，興味を充実させる。 ・校外学習や学校行事等の準備に見通しをもって取り組む

4) 指導過程 (別紙2)

時間	学習活動 (T1)	教師の働きかけ (T1)	 : 生徒の活動 : 評価の場面 ○ : 予想される生徒の反応 ● : 教師の支援		準備物
			生徒A (T2)	生徒B (T3)	
導入 (15分)	1 あいさつ	・日直に挨拶するように合図をする。	○T1の方をじっと見ながら、体を硬直させる。 ●T1は笑顔で言葉掛けしながら、生徒の反応を促す。 (生徒のうなずき等、生徒が合図に反応したところを見定める)	○体を硬直させながらも、「はじめます」と挨拶をする。 ●言葉掛けやマッサージなどで体の緊張をほぐす。	・タオル ・パソコン ・モニター ・ばち、太鼓
	2 体ほぐし体操 (10分)	・背中、肩、肘、手首の順で体をほぐしていく。	○下を向き、脱力する。 ●固まっている部分を中心に、ゆっくり体をほぐしていく。	○気分が高揚し、何かを言葉にしようとする、興奮すると体が硬直する。 ●生徒の様子を見ながら体をほぐしていく。	
	3 学習内容を確認する。	・本時の学習内容と流れを説明する。	○周りが気になって周囲を見渡す。 ●本時に使用する道具(モニター・ばち・太鼓・等)を目の前に提示しながら説明する。	○興味を持って教師の話聞く。 ●T1の話を補足する。	
展開 (35分)	4 昨年度の「やまよう祭」の様子を知る。 ○昨年のステージ発表のスライドを見る。(10分) ○写真カードを見る。(5分)	・昨年度のステージ発表の様子を写したスライドを見せる。(ステージ3枚、校舎内2枚) ・昨年度のステージ発表や校舎の様子を写した写真カードを見せる。	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">①教師と一緒にスイッチを入れる。②スライドを見る。</div> ○スライドの画面に集中できず、周りを見渡す。 ●パソコンにつないだBOKAスイッチを提示し、スイッチを押させ、画面に意識がいくように言葉掛けする。 ○写真カードに興味を示さない。もしくは凝視する。 ●モニターと写真カードを同時に提示する。 <div style="border: 1px dashed green; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">①スイッチに手を伸ばす、スイッチを押すことができたか。②スライド、写真カードに視線を送ることができたか。</div>	○喜んでスライドの画面を見て、歓声を上げる。 ●生徒の喜びを共感する。	・テレビ(モニター) ・パソコン ・BOKAスイッチ ・あごで操作するスイッチ ・昨年度使用した道具 ・テレビ(モニター) ・パソコン ・昨年度の展示物 ・太鼓 ・ばち ・ベル ・スイッチ
	5 今年度の「やまよう祭」の内容を知る。 ○今年度のステージ発表の内容を知る。(5分) ○太鼓をたたく。(10分)	・今年度のステージ発表の内容を知らせる。「夏祭り」 ・T1がCDに合わせて、太鼓をたたく。 ・生徒に太鼓とばちを提示する。	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">④教師が太鼓をたたくところを見る ⑤教師と一緒に太鼓をたたく。⑥一人で太鼓をたたく(スイッチを入れる)。</div> ○突然の動きに驚く。 ●リズムに合わせて、生徒の側で太鼓をたたいてみせる。 ●BGMを止めて、静かな状態にし、ゆっくり教師がたたいてみせる。 (生徒がやりやすいようゆっくりリズムを整える) ●生徒にばちを渡し、演奏を促す。 ●生徒ができれば賞賛する。 <div style="border: 1px dashed green; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">④教師の示範を見る。⑤教師と一緒に太鼓をたたく。⑥一人で太鼓をたたく。(スイッチを入れる)</div>	○教師の動きに喜び、体を硬直させる。 ●言葉掛けやマッサージで緊張をほぐす。 ○スイッチでできる鳴り物を鳴らしてみる。 ●スイッチができるように支援する。	

<p>終 結 (5 分)</p>	<p>6 振り返り ・この時間の活動を振り返る。</p> <p>8 あいさつ</p>	<p>・写真カードを提示し、「やまよう祭」の全体の様子を説明する。</p> <p>・太鼓とばちを提示し、生徒の頑張りを称賛する。</p> <p>・日直に挨拶するよう合図する。</p>	<p>○周りが気になって、写真カードが見られない。 ●周囲に気になる物が視界に入らないように、車椅子の向きや周囲の配置に配慮する。</p> <p>○太鼓やばちを見る。もしくはお祭りの囃子をたたく。 ●生徒の頑張りを称賛する。</p> <p>○T1の方をじっと見ながら、体を硬直させる。 ●T1は笑顔で言葉掛けしながら、生徒の小さな反応を察知し、言葉掛けする。 (生徒のうなずき等、生徒が合図に反応したところを見定める)</p>	<p>○興味を持って写真カードを見る。 ●T1の補足説明をする。</p>	<p>・テレビ(モニター) ・パソコン ・昨年度の展示物</p>
---------------------------	--	---	---	--	--

A ケース会の結果からの考察

意思表示と思われる行動がある

- ・快、不快の表情がはっきりしている。
- ・舌打ちと思われるような行動をとることがある。
- ・ほめられてうれしいとき、ピースサインが出ることがあった。
- ・教師の問いかけにうなずくような行動を見せることがある。

- ・教師が手本を見せた後、途中まで手を取ってやらせると、自分から手を動かして線を描いたり、車椅子で自走したりした。

- ・校外学習の事前指導で写真をみせたが、バスの中で震えていた。見通しはもてなかった様子。

写真の提示には工夫が必要

母の思い・要望

- ・毎日、短時間でいいので、関わってほしい。
- ・生活のリズムを整えてほしい。
- ・学校生活をしっかり送らせてほしい。

車椅子

- ・以前は自分で動かしていた。
- ・今は自分から動かす気はない。
- ・促せば自走する。

身体の状態

- ・側弯あり。車椅子に乗ると、肩のラインが斜めになる。骨盤の左方向への傾斜があると思われる。これは巧緻性にも影響する。
- ・両足がかなり変形している。
- ・脚の変形、拘縮が以前よりひどくなっている。
- ・両膝裏の筋肉が固くなっていることが多い。

巧緻性

- ・物をつまむことができる。
- ・右手首の回旋が不十分で食べ物をこぼす。
- ・右手は動かすことが多いが、左手はあまり動かさない。
- ・筆を持って線を引くことができるが、肘を浮かせないため、肘を中心とした弧の形になる。

示範は有効

粗大運動、微細運動

称賛は有効

見通しを持つこと

経験すること

場や人、活動に見通しが持てないと緊張して震えたり、周囲の様子をうかがったりする

人・物を注視する

- ・活動中、気になる物、興味のある物があると、そちらを注視する。
- ・手元を見ることができ、時間は短い。
- ・周りの様子をさかんに見ている。

人見知り

- ・大人数が苦手。眉間にしわを寄せて、周囲の様子を見ている。
- ・慣れない事、場所は苦手。
- ・人見知り
- ・目が合うと、すぐに目をそらす。

緊張が強い

- ・大勢の中では緊張しやすい。
- ・緊張すると震えが止まらない。
- ・新しい環境が苦手。

- ・手に筆を持つなど、新しいことをやらせようとすると、手を引っ込める。

見通しが持てる場や人、活動には行動を起こす

- ・以前は人の頭をなでて、満足そうな笑顔になっていた。
- ・女の人が好きだと前の看護師さんが言っていた。
- ・病棟の好きな人には自ら近づいて髪に触れたりして笑顔でいた。

- ・興味のある人や物に自分から手を伸ばす。

- ・少人数のなかでは笑顔で過ごすことがある。

- ・帽子を渡すと、素早くかぶる。

- ・エレベーターのボタンを自分で押そうとすることがある。

- ・教師が手伝ってくれると思うと、自分の手を止めて、任せようとする。

- ・繰り返してやってきたボールを使った運動には素早く取り組む。

- ・自食できる。
- ・左右の手でスプーンが使える。